

■ 随 想 ■

千歳壽一先生をお迎えした頃

式 正 英

1991（平成3）年2月7日、私は東京都庁をお訪ねし、総務局長と総務部長にお会いした。続けて浜松町にある東京都職員研修所に伺い、所長や次長にお会いした。当時、都の職員としてお勤めであられた千歳壽一先生を、お茶の水女子大学の専任教官としてお迎えする為、教室主任として都に割愛をお願いに行った訳である。既に形式的な段階ではあったが、官庁間の社会的儀礼として経過する必要があった。先生はこの話を喜んで受けられ、都の定年前ではあったが退職され、新規採用で4月、本学にお見えになったと覚えている。得難い方に来て戴けて有り難かったし、八方円満に進んだ人事であった。

一般教育科目「情報学」に定員が付いたのは1986（昭和61）年だったが、どの学部にも所属させるか、どの学科が面倒を見るかが先ず議論の種となった。井内昇先生が当時一般教育委員長等を勤められ、御専門の上でも都市機能分析に数値情報を基にした多変量解析等を得意分野とされていたし、情報学関連への御造詣の深さも手伝って曲折はあったものの地理学科がお世話する事になった。その結果、同年11月、当時計量地理学分野で最も活躍の目覚ましかった久保幸夫先生を情報学の専任講師としてお迎えする事になった。久保先生の場合は研究中の事情から中型コンピューターを移設する必要がある、それを容れる部屋を用意する前提があったが、浅海重夫先生の御配慮で是をクリアーし、お出まし戴けた。その機器はそ

の頃、既にお茶大に設置されていたコンピューターの性能を凌ぐものとも伺った。

久保先生在任中には、その御努力もあって大学の情報処理センターの機器も更新されて、情報化時代に即応できる様になった。同先生は地理学科プロパーの学生指導等にも積極的に参加されたが、在任僅か5年弱で新設の慶応大学環境情報学部へ転任される事になった。転任の御希望が伝えられたのが前年の秋で、それから新人事に取組むのは少々難事になるかとも思われたが、関係者の助力や努力が実って、上述の次第で久保先生の後を千歳先生が引継がれたのである。

千歳先生は私の7年程東京大学での後輩であるが、お茶大に赴任される2年程前まで存知上げてはいなかった。専門違い、旧制と新制の違いと言う事もあるが、一層の差はコンピューターに馴染むか否かの時代差が大きい様に思われる。私の世代の者にはワープロの使用さえ拒否を示す連中がいる。1972年在外研究中の体験であるが、アメリカでは既にアーツ衛星のデータ処理する為、全国の大学を繋ぐコンピューター・ネットワークが出来ていた。当時の日本の情報処理技術は遠く及んでいなかった。アメリカからのプッシュも二進法教育の普及もあったであろうが、その頃から若い世代の研鑽があつてコンピューター社会へと日本が転換して行ったと思う。年齢的にも千歳先生はその若い世代の先頭に立てられていた事になる。

お茶の水女子大学周辺の都市整備

正 井 泰 夫

千歳壽一先生は、東京の都市整備に長年の経験と深い知識をもった方である。先生のご退官

にあやかって、私の知っているお茶大周辺の都市整備について少し思い出してみた。